

Title	動詞基本形の習慣アスペクトについて(二〇一三年度卒業論文要旨集)
Author(s)	高桑, 敬博
Citation	札幌国語研究, 19: 72-72
Issue Date	2014
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7633
Rights	

動詞基本形の習慣アスペクトについて

日本語教育学研究室 ○四六一 高桑 敬博

日本語の動詞の基本形には「彼は毎日公園を走る。」のように、動作主体の習慣を表す習慣アスペクトがあるとされている。一方、動詞基本形の習慣アスペクトは、「彼はよく肉を食べる。」といった、動詞が動作主体の恒常的な性質を表す場合との区別が難しいとされてきた。本研究では両者の比較を通して、動詞基本形の習慣アスペクトの特徴について研究を進めた。

従来の研究を考察することを通し、本研究では、動詞基本形が習慣アスペクトを表すための条件には、「状況語の有無」「特定のな名詞句の有無」「過去形への置き換え操作」の三つの要素が関係していると仮定した。各要素について、例文を操作することを通してその妥当性を検証した。

動詞基本形が習慣アスペクトを表す場合の特徴（文中に状況語が必要であること、名詞句が特定のでなければならぬこと、過去形に置き換えても習慣のアスペクトが失われないこと）は、話し手の存在が関係していると考えられる。性質を表す場合は話し手の観察、経験は必要ないが、習慣アスペクトを表す文は話し手の経験や観察を必要とする。また、話し手の経験、観察を元にした叙述であることを示すため動詞基本形が習慣アスペクトを表す文では状況語や特定のな名詞句が必要となる。つまり、習慣アスペクトとは話し手の存在によって限定された動きの局面を捉えた表現であると結論づけられる。